

同窓会報

南秀

編集 一般社団法人
南秀同窓会
発行人 與儀千壽子
制作 花View出版
TEL 74-3881

宮高23期と定時制15期の 卒業50年を祝う

一般社団法人 南秀同窓会

会長 與儀 千壽子 (18期)

冬とは思えぬ明るく輝く太陽が、収穫を待つさとうきび畑を照らし、冬波の立つ海も深い青のビロードの様です。月日の経つのは、自身の加齢と共に益々速くなつていく様に感じられます。

一般社団法人南秀同窓会も何とか令和三年度をスタートさせましたが、人智を超えた新型コロナウイルスの強壁を打ち破ることができず、最も重要な同窓会の事業「卒業50年を祝う会」

話し合いの場を持たれ、同窓会への支援がなされていることに、衷心よりお礼申し上げます。

皆様の例年以上の同窓会へのご協力とご支援は、同窓会への温かく深い愛情だと受け止めております。ただただ頭の下がる思いです。

今年度も、母校宮古高校の支援と奨学金の給付事業は、予定通り進められております。

これまで先輩方が創設し、積み重ねられて来た「未来創造基金」も、23期・定時制15期の皆様のご芳志が加えられ、大きな課題である基金の増額も、今年度の一定の目途がつきほつとひと安心しております。本当にありがとうございます。

母校宮古高校も、これまでにない社会状況のなかでも、より充実した教育活動が図られ金城校長先生のリーダーシップの下、情熱をかけて、「文武両道」の校風を受け継ぎ、礼儀正し

く若者らしく、まっすぐに夢に向かって頑張っている姿が、新聞等の報道を通してうかがえ、卒業生の一人として誇らしく思います。

二年に続く、新型コロナウイルスの影響もあり、南秀同窓会の活動が、停滞している状況を考えるにつけ、会長の力量不足を恥じ入っていましたが、次年度に向けてなんとか舵を取り直して、新しい年は、活発な同窓会活動に向けて衿を正さないとはいけなさと考えています。同窓会員の皆様の益々のご指導とご協力をお願い申し上げます。

今ひとつ、今年度は、同窓会にとっても残念で悲しい出来事がありました。

前会長の真築城忠之氏がご病氣療養のかいなく令和三年四月二十二日ご逝去なされたことです。

前会長真築城忠之氏は、南秀同窓会の社団法人化、宮古高校創生の父「盛島明長」の胸像移転並びに「盛島明長伝」の復刻等、多くの事業を、その誠実さと明

確な目的意識を持って、着実な行動力をお示し下さいました。真築城会長のもとで、周りに細やかなご配慮を示されるお姿と粘り強い精神力に、多くのことを学びました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。同窓会のために真心を尽くして下さった真築城会長の想いを後輩の私たちが引き継いでいかねばと考えています。

新しい年が良い年になるように願ひ、宮古高校のさらなる発展と南秀同窓会の会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



旧校門

「チーム宮高」を合い言葉に、 夢実現・自己実現への支援を



宮高高等学校 校長

金城 透

校庭の花や木々もさわやかな彩りで満ちあふれた季節となりました。宮古工業高等学校から転勤して参りました校長の金城透と申します。私は平成13年度から3カ年間、教諭として、また、平成29年度には教頭として本校での勤務経験があります。この4月再び校長として勤務することとなり、大変喜んでいると同時に身の引きしまる思いを新たにしています。南秀同窓会の皆様には、本校を卒業し大学等へ進学した生徒への奨学金の給付をはじめ在校

校生への人材育成基金の支援、さらに南秀同窓会の実施等、日頃から大変お世話になっております。この場をおかりしまして心より感謝を申し上げます。さて、本校におきましては、始業式や赴任式、入学式が挙行され、慌ただしく新学期がスタートしました。入学式は新型コロナウイルスの拡大を縮小することにより規模を縮小することになりましたが、普通科161名、理数科71名の計232名の新入生を迎えました。多くの保護者、来賓の皆様方のご臨席を賜り、静粛の中にも和やかな雰囲気で行われ

ましたことに、感謝とお礼を申し上げます。入学式では、本校の扉を開いた新入生に「意志あるところに、道は開ける」という言葉を送りました。この言葉には、「夢実現・自己実現に向けてしっかりとした目標を掲げ、希望や勇気を持って臨めば、何事もなし得る、念願が叶う。」という意味が込められていること、あつという間に過ぎてしまう高校生活で、夢と希望に胸をふくらませている今、将来の自分の姿を想像しながら、挑戦と努力を怠らず、一步を踏み出して欲しいと激励しました。

高校生活での夢と期待、緊張と不安の気持ちがあふれていた一年生も、現在では、表情豊かになり、学業に勤しみながら、先輩とともに部活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいきます。校内は活気に満ちあふれており、生徒一人ひとりが夢実現・自己実現の達成に向け、日々の教育活動に意欲的に取り組んでいきます。昨年度の顕著な実績として、進路面では、県外の国公立大学11名を含む、県内国公立大学の琉球大学13名、県立芸大1名、県立看護大学2名、名桜大学4名の計31名が合格しました。平成からの統計では、過去最高であった平成29年度に次ぐ二番目の合格者数となっています。また、スポーツ文化面での活躍も大変目覚ましく、卓球部や自転車部の全国大会出場をはじめ、多くの部が九州大会に出場し優秀な成績を残すなど、今後の躍進が期待されます。

生徒会を中心とした活動も活発で、9月に開催される「第24回学園祭」の成功に向けた企画・運営にすべての生徒が意欲的に取り組み、生徒はもちろん保護者や地域の方々にも印象に残る学校行事となることを楽しみにしています。本校では、「時を守り、場を清め、礼を正す」の行動三原則を推進しています。生徒たちには、身について欲しい行動規範である「時間やルールをしっかりと守る。整理整頓を行う。進んで挨拶をする。そして、身なりを正す。」ことの実践を通して、本校の生徒として、自信と誇りを持ち、仲間とともに充実した学校生活を送って欲しいと思います。今後も、「チーム宮高」を合い言葉に、生徒たちの夢実現・自己実現に向けた支援を進め「誇りある学校」、保護者や地域の皆様方には「信頼される学校」を目指し、職員一丸となって教育活動に邁進する所存であります。結びになりますが、南秀同窓会の益々のご繁栄とご発展を祈念し、本校教育に對するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。あいさつと致します。

個性・創造力大切に活動

宮古高校 生徒会長

嶺間 凜汰朗 (75期)



南秀同窓会の皆様こんにちは。私は、宮古高校、生徒会長の嶺間凜汰朗(みねまりんたろう)です。私達宮高生は皆さん先輩方が築き上げた伝統を守り、より良い宮古高校にしていくべく、日々向上心を持ち頑張っています。そして今年度は制服の選択自由化と、生徒会の企画運営について力を入れて活動しています。

近年、ジェンダーによる男女の差別を解消しようと社会でも様々な取り組みが行われています。学校でも、制服の選択自由化について話し合いをすることで、全生徒が不自由なく過ごせるような学校作りを目指し、取り組んでいます。そして、コロナウイルスの影響もあり、思うように学校行事を行えない中、少しでも生徒・職員が楽しめるよう、クラスTシャツコンテストなど感染対策をしながらの行事を考えています。他にも生徒全員が学校生活を有意義に過ごすことができるように意見箱の設置を行いました。多くの意見が集まり、その意見について生徒会で話し合いを行い、できるだけ皆さんの良い意見を反映できるように努めています。

私は、生徒会長になってまだ2カ月ですが、宮古高校生代表として、皆様に挨拶できることを嬉しく思っています。現在、学力だけでなく、個性・創造力が社会に求められるようになっていく中、学校でも一人一人の個性や想像力を大切にした活動ができるように、学校全体で良い雰囲気を作り上げて、そして、先輩方の築き上げた伝統を後輩たちにも伝えていきたいです。残りの高校生活に悔いがないよう全力で取り組み、一生忘れられない思い出を作っていこうと思います。先輩方、これからもご支援をよろしくお願いします。



現在の宮古高校 校門

奨学生

卓球部の活躍に力湧く

名桜大学国際学群国際学類二年次

親泊 怜央 (72期)

南秀同窓会の役員、そして関係者の皆様、この度は奨学金を給付して頂き、誠にありがとうございます。大変嬉しく思っています。家庭の事情も考慮されて

いると思いますが、何より私自身の高校三年間の学業と部活動両方での好成績の維持、そして大学一年次の努力の証だと思っております。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、世界中で様々な活動が制限されている状態にあります。私が暮らしている沖縄県名護市においても、感染が拡大しており、思い描いていたような大学生活や、卓球での活動ができていない状態です。

しかしその中でも、宮古高校卓球部の後輩たちの県大会四連覇や、九州・全国大会出場などの大活躍により、私も勇気づけられ、またそれが原動力となり、コロナ禍という中でも、自分の目標を見失わず活動できていることにつながっています。

七十二期生、宮古高校卓球部OB、南秀同窓会の奨学生として、その名に恥じないように、大学生活を有意義に過ごしていきます。末筆ながら、改めて感謝致します。この度は本当に、ありがとうございます。

奨学生

今できることを

琉球大学理学部数理科学科三年次

伊志嶺 元隆 (71期)

気が付けば、新型コロナウイルスの流行から1年以上が経ち、大学に行き授業を受ける事は勿論、部活動、アルバイト、友達と全力で遊ぶ事の出来ない日々が続いた。特に大学での私の専

門である数学の勉強は、毎週送られてくる資料や音声をもひたすら自分一人で読んで聞くを繰り返し、初めはまったくと言っていいほど、モチベーションも上がらなかった。これまでの様

にテストがあるわけでもなく、はつきり言ってしまう、身につける知識が中途半端でも単位を取得する事が出来た。そんな状態では、これまで良い意味で「勉強させられていた」事を実感させられた。

また、学びという点では、アルバイトや部活動、インターンなど、「人を通じて何かを学ぶ機会」が大きく減った。学校にも行けず、アルバイトも出来ず、先輩や友達とも気軽に合う事が

難しい。今しか出来ない事を探して行動したいという思いと元気はあるのにどうしていいか分からない。そんな日々が続く中で私はある事に気づかされた。それは「『学び』は自分から掴みに行かなければならぬ」という事である。今いる状況の中で最大限できることを考え、探し、行動する。とてもシンプルだがこれを行っていくしかないと考えることができた。今以上に大学の勉強に力を

奨学生

技術を磨き地元還元へ

茨城大学農学部地域総合農学科四年次

亀川 凜快 (67期)

大学生生活も残すところあと半分となりました。研究や実験に勤しめるのも皆様のご支援があつてこそだと、この場をお借りして感謝申し上げます。

四年生になり、植物遺伝育種学研究室に配属されました。有用な遺伝子を見つけて、将来の農業の発展に寄与することを目的としています。対象となる植物は、

イネや朝顔、キュウリやトマトがあり、その中で私は朝顔の交雑障壁という機構に関する研究を行っています。これは、異種間で交配をすると種子を形成しない現象等をいいます。未解明な部分が多いため、この機構を明らかにすることで、有用遺伝子を組み込みやすくなる可能性を秘めています。難しい研究でうまくいかないことも多々ありますが、毎回得られる疑問を楽

しんで研究しています。進路は、大学院に進学することも考えましたが、将来やりたいことをするために、農業の現場を知り、多くの技術を得る必要があると考えたため、就職することを選択しました。ご縁があり、「こういうことがしたい」という旨を受け止めていただいた会社と巡り合うことができたので、技術を磨き知識をさらに詰め、いつか地元還元でき

るような実力をつけていきたいと思っています。最後に、農業は今、革新すべき時期に來ていると思います。生産するだけが農業だけじゃなく、面白さ、魅力、サステナビリティ、あらゆる側面を伝えていくことが大事です。少しでも多くの人が農業界に参入してくれる日が来ることを願っています。

奨学生

恩返しのできる人間に

杏林大学外国語学部英語学科四年次

波平 万葉 (70期)

杏林大学外国語学部英語学科の波平万葉です。昨年度に引き続き、今年度も南秀同窓会様から奨学金を頂きました。誠に感謝しております。私は幼少期から英

語に力を入れてきました。大学でも英語を専攻したいと考え、英語学科に入学しました。大学では翻訳と通訳を専門的に学べるゼミナールに所属しています。

実際に翻訳家として活躍しているのを感じる教授の元で、より高度な英語を学ぶことに日々喜びを感じています。お陰様で、春から東京で就職することが決まりました。将来は英語に携わる職に就きたいと考えています。大学で学んだことをさらに発展させることができるよう、探究心を持って精進して参ります。こうやって望む場所や環境で、学問を学べた事や、

学校生活を送れたことは決して当たり前ではないと思います。私の祖母は昔から人は皆平等ではないと言っていました。生まれた場所、家庭環境、金銭的な事情は、全ての人が恵まれているとは限りません。しかしどんな状況でも前向きに努力して人生を開拓していけるかはその人の価値が生まれるのだと思います。生まれ持ったものは人それぞれ違えど、このような支

援のおかげで、多くの学生がチャンス掴むことができます。私が卒業できるのも家族や先生方、そしてご支援頂きました南秀同窓会様がいてくれたからこそのございます。今までは恩返しができるような社会人に成長していきたいです。

奨学生

与えられた使命果たす

琉球大学医学部保健学科四年次

根間 みなみ (70期)

琉球大学医学部保健学科4年次、宮古高校理数科卒業生の根間みなみです。この度は、南秀同窓会奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、今年度もご支援いただけることを大変嬉しく思います。

宮古島を離れ大学へ進学してから、早、四年目に突入しました。現在大学では、看護師及び保健師の臨地実習に加えて、卒業研究、国家試験対策に励みながら充実した日々を送っております。学年を追う毎に実習内容も専門性が高まり、まだまだ分からないことや困難なこともあります。これまでの学びがしっかりと身に付いているのか、力試しの場となるだけでなく、自

分に足りない能力や課題に気付くことのできる貴重な機会となっております。7月まで行われていた看護実習では、新型コロナウイルス感染症の影響により医療現場が逼迫する中、安心・安全な療養環境の提供に努める臨床現場の実際を肌で実感しました。また、9月までの保健師実習では、コロナ禍であっても地域住民の健康及び生活の質を守るべく、事業や各種サービスのあり方を変化させながら業務に取り組む行政職の現場を経験できました。

私はこれまでの大学生活を通して、看護師職と保健師職の二つの視点から学びを得てきましたが、どちらの職種でも共通していたことがあります。それは、常

に先を見据えながら「できることは何か」「何が最善か」と試行錯誤を重ね、専門職として与えられた使命を果たそうとする姿勢です。そしてこの姿勢は、来年度から社会人として新たな一歩を踏み出す私にとって、目指すべきものとなっております。

卒業後は、看護師として琉球大学病院へ就職する予定ですが、こうして充実した環境下で学びを継続できているのは、両親や祖父母をはじめ、南秀同窓会の先輩方の支えがあったことです。今回ご支援いただいたように、私も生まれ育った宮古島へ恩返しができるよう、そして、5年後10年後どうありたいか、そして今自分にできることは何かを考え行動で示すことができるよう、これからも自己研鑽に励んでいきます。結びになります。今回ご支援を下さった全ての方に心よりお礼申し上げます。奨学生挨拶とさせていただきます。



現在の宮古高校

思い出の記

宮古高校・卒業50年を祝う

「ふる里」遠近抄

川上 正人 (23期)

ふる里を離れて50年が経った。金沢大学で6年間、教養と医学のエッセンスを学び、東京では研修医をかきわきりに44年、半世紀の長きにわたり異郷の地で暮らしている。

ずだった。折からのコロナ禍では三密対策が困難となり、昨年と本年度の式典は中止となった。学友と語り、旧交を温める機会が失せたことは残念である。

ここ20年は仕事の都合で東京と富士山の麓の病院を行ったり来たり。新幹線で居眠りしながらアレコレ考える習性が身についた。50年前とは世界の環境・生態系も人間社会もガラリと変わってしまった。されど、片時もふる里を忘れたことはない。

真綿で首を絞められるような不安と風評にバランス感覚を失った偏狭なコロナ世情は戦時下体制に似ている。コロナウイルスは電子顕微鏡でしか見えない。色付けされたウイルスは太陽の王冠のように美しい。反面、揺れ動く現実が電頭では見えない。やがてコロナも現実の荒波にさらわれる。

本来なら「卒後50年を祝う会」は、毎年11月吉日に宮古島市で盛大に開催される。高校時代の楽しい(苦い)思い出話に花が咲き、浦島太郎の気分で青春の仄かな夢と熱い思いを開陳するは

50年間のこのころの蠢きは現実と記憶のグラデーショ

ンの波間でゆれている。入学時には腕時計と自転車を買い与えられる。それは成長した証で、行く手を切り開く利器でもあった。自転車通学は思いのほか楽しい。旧「測候所」脇の急な坂道の上り下りは足腰の鍛錬になる。たまに違うルートで通うと道に迷ったりする。

高校時代の何よりの思い出は、ハンドボール部の草創期に一期先輩及び同窓生の仲間と共に汗をかけたことである。近年は母校の野球部とサッカー部の活躍を耳にする。あの頃のハンドボール部は初々しく真面目に活動した。対外試合は出来なかつたが意外にも強かつた。2年生の全沖縄大会では優勝した那覇商業高校に準決勝戦で惜しくも敗れた。決勝進出は逃したがベスト4に輝いたのだ。初陣にして宮古旋風をまきおこした。今でも当時のユニフォームは宝物である。

私は昨年(2020年)、はからずも第11代関東南秀同窓会の会長に選任された。会員の皆様のご支援と

事務局の的確な企画・運営で持ちこたえていた。最近では、若い世代の参加者も少しずつ増えてきた。宮中、宮高の先輩たちが築いてきた伝統と叡智を絶やさぬよう関東南秀同窓会の発展に微力を尽くしたい。現在、コロナ禍で同窓会の活動は休眠状態。会誌「絆」を年に2回発行し、会員の近況報告や日々の断想を伝えている。当同窓会は4年後には創立70周年の節目を迎える。「南秀同窓会」および「沖縄南秀同窓会」の皆様と連携・協力して母校の発展と人材育成に寄与できることを願っております。

21世紀になって宮古島を取り巻く状況・環境は大きく変わりました。改めて「南秀魂とは？」と思いをめぐらし、何処にいても宮古の空と海と風に抱かれ、同じ学び舎で共に励んだ学友の心意気は通じ合えると思えます。母校の益々の発展および宮古の多様な感性や魂がブレる事なく引き継がれることを祈念しております。

珊瑚と流れ星

幼い頃

珊瑚は海に根を張る
けなげな樹木、
つきせぬ愉楽をつなぐ
竜宮城の美しいシンボル、
太陽と番(つが)った天女の褥(しとね)、
だと思つた

珊瑚は

命を重ねながら
光子の精を吐き出し
深深と枯れる
束の間、潮に洗われ
凸凹の石になる
やがて、地震(ない)に浚
(さら)われ
地上に引き上げられる

死んだ珊瑚は
粗末な家々の生垣でよみが
える
そこに寝そべると
流れ星は、いつそう美しく
燃える

海鳴りや綱なふおばあのア
ヤグかな 空舟

楽しみは給食・社会勉強のバイト

新里 利夫 (定時制15期)

昨年からの新型コロナ禍で「宮古高校卒五〇年を祝う会」が中止となり、楽しみにしておりましたが、誠に残念でなりません。

定時制と全日制とは共通の面もありながらも全く違った思いも多かったのではないかと思います。色々な事情から定時制へ進み、切磋琢磨した仲間との四年間を郷愁と共に懐かしく振り返りたいと思います。

我等定時制の一番の思い出深いことは何と言っても給食時間であったように思います。一日の仕事を終えて急ぎ登校し、束の間一時限目が始まり、仕事の疲れも辛抱しながら無事終了。さあ給食時間だあペコペコで給食当番でもないのに先を競い、今日は何だろうと取りに行く。今日の給食は不味いと言いがらもお替りしていたカレーライス・そば・ジュウシヤゴ飯等でお

腹を満たしていた。しかし、それからの二時限目が大変、お腹は満たされ、昼間の疲れから睡魔との戦いの毎日であったような気がする。

教科の先生は四〜五歳の年齢しかない兄貴や姉貴のような先生から教わることも多く、親身になって補習指導や進路は勿論、恋愛、悩み事等の多くの相談にも乗って貰った。休日には本島出身の先生や兄貴・姉貴を誘って島内各地を案内して一緒に遊んで楽しんだものだ。

私の在学中のバイトは給油所から港の通関業(本土復帰前の本土との貿易事務)まで数えたら六種に及んだ。自分は何がしたいのか、何が自分に適しているかを模索する今日で言う貴重なインターンシップの時期であったように思う。バイトをしながら社会人としてのマナー・知識・要領・稼ぐ大変さを多くの大人か

ら身を持って教わった。一年生の頃無知蒙昧で始めたバイト、自分の賃金が妥当なのか判断も付かず言われるが儘の賃金であったと思う。先輩や同級生とどこか給料は高い、安いと言った情報交換をしたものだ。その後金銭感覚も養いより有利なバイト先を探すことも出来た。その頃に経済感覚・交渉術が身に付いたのか？

学業と仕事を何とか両立しながら、同年齢より多くの事を体験することが出来たのも、定時制であればこそと思う。

そして、上京して大学で学ぶ中、宮古でのバイトの経験から貿易や外国為替に関心を持ち、卒業後東京の銀行に就職した。銀行では外国貿易業務・融資業務を通じて、企業の経営支援に関わり、定年までの三七年間と定年後の七年間ひたすら金融業に関わって来た。最後に唯々残念なことに母校に自分が学んだ定時制課程が二〇〇五年三月で無くなった事を寂しく思うものである。

人生を変えた地区高校

秋季陸上競技大会

多良間 勉 (23期)

あれから50年か。まさに光陰矢の如しである。〃月日は流れ、今世界中がコロナ禍で未曾有の危機にある。そのため「卒業50年を祝う会」も2年連続中止となった。

世の中の出来事は「全て必然・必要」そして「生成発展していく」と著名な方が公言していた。コロナ禍後の世界はどうなるのか？ 公言通り良くなつてほしいと願うばかりである。

さて、私の高校時代を振り返ると、明よりも暗が多かった。学友や部活仲間との楽しい時もあったが、一方で、人生とは限られた命、いつかその時が来ると死の恐怖に苦しみ、また、勉強と部活の両立について悩み、もがいていた。まさに大海原に浮かぶ小舟のごとく揺れに揺れて転覆せぬよ

う必死に頑張っていた。3年生になってようやく波穏やかになり、将来を羅針盤で定めようとしていた。そんな中、10月に宮古地区高校秋季陸上競技大会があった。私はバレー部であったが、学校代表に選ばれ100m(11.9)、200m(24.2大会新)、400m(46.9大会新)の3種目に優勝した。学校としても2年ぶりに男子総合優勝を果たした。私はその時期まで卒業後の進路を決めかねていた。大会数日後、進路相談室に行つたところ国費の体育学科への受験を進められた。教師になりたいと思つてい

たが体育教師は頭になかった。しかし、陸上競技大会の余韻がまだ残っていたのか、先生の指導を素直に受け入れ体育教師への道を志

すことになった。まさに人生行路を決めた分岐点であり、まぎれもなく私の人生を変えた地区高校秋季陸上競技大会であった。

大学では陸上部に入学した。しかし、努力すれども記録は伸びず大暗の4年間であった。卒業後は宮古

島に帰り教職につく。ここで思いもかけないことが起きた。あれほど伸び悩んでいた陸上の記録が飛躍的に伸びたのです。赴任して7月の全宮古陸上競技大会で100m11秒2、200m23秒2の大会新で優勝した。大明が訪れた。その後、宮

古陸上競技協会の理事となり「陸上競技への恩返し」を込めて地域のスポーツ行事に関わった。その中で、昭和58年県高校駅伝大会を宮古に開催したことが誘因となり、2年後にトライアスロン大会が開催されたことや平成13年全九州高校駅

伝沖縄大会を宮古で開催できたことは最高の思い出として残る。特に、宮古の発展に大きく貢献したトライアスロンに第1回大会から関わることができたことは私にとって最大の誇りである。振り返れば、私の人生の源流は宮古高校3年時、

50年前の地区高校秋季陸上大会にあった。母校に感謝です。最後に、現役高校生の皆さんへ、次の言葉を贈り結びとします。

「日々努力！ 人生、一生懸命の先に必ずプレゼント有り！」

我が半生記

池城 直 (23期)

高校卒業以来50年が経過した。まさに光陰矢の如しである。退職後高校卒業以来44年ぶりに宮古に戻ってきた。久しぶりに母校を尋ねると、高校生の頃胸をときめかせ、好きな人待ち伏せした校門は閉じられ、隣に新門ができていた。

私の高校時代は人生に、恋に、容姿に、その結果として成績低下に等々悩みの連続であり、青春時代の真ん中は胸に棘刺すことばかりであった。が、心の中では、いつか世界に出ていき

たいと熱い思いを密かに抱き続けていた。原点は、幼き頃、伯父さんが漲水港から宮古丸に乗り、ブラジルへ移住していったのを見送ったことである。伯父はその後所謂成功組となり、家族で里帰りし、ピラニアの剥製、モルフオ蝶の大きな額を貰った。それから南米に興味を持ち、移住を考え、世界一周を考えたことである。私が高校生の当時はベトナム戦争が最も酷い時期で、宮古上空を嘉手納基地を飛び立ち北爆に行くB52

の飛行機雲が大きく見えていた。なぜ、世界で戦争が起きるのか、平和になるためには若者が政治を行う必要があるのでは、そのために世界の若者と対話しようと思い、大学に入ると世界一周のための準備に粉骨し、ダンパやコンパにも参加せずアルバイトに精を出した。学科は工学系であったが開講されている外国語は全て単位を取った。南米に興味を持った結果、チェ・ゲバラの思想「民族自決権」を知り、なぜ沖縄は異民族支配にあるのか(現在も米国と日本に軍事支配されているが)世界一周後はキューバに赴きゲバラの思想を学習し、沖縄の民族自決を確立しよ

うと考えた。しかしながら、大学4年間で貯めたバイト賃では、経費が足りず、悩んでいるときにJICAの求人が学生課にあり、これに入れば世界一周できると考え、東京まで受験に行ったのは、遥か45年前のことである。それから38年間働き、勤務した国は7か国17年間、訪問した国は、キューバを含め74か国であり、高校生のころの夢を実現した。

現在の学生に伝えたいことは、大きな夢を持ちそれに向かって努力してほしいということである。その夢が実現できなくてもいつか、どこかで努力は必ず実を結ぶものである。さて、月日は百代の過客

にして、行き交ふ年もまた旅人なり。予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず、宮古に戻って後も旅を続けている。5年前はウラジオストクからモスクワまでシベリア横断鉄道を2週間一人旅し、3年前は、中南米を支配し、インディオに残酷な政策をしたスペインとポルトガルが、なぜそういうことができるのか理解したくて訪ねた。コロナが収まれば、古希を記念して憧れの大地、南米一周半年間のバス旅行を計画している。人生いつまでも夢と希望と大志を持ち続けたいものである。

ワイテイ頑張り！

3年4組

城間 将江 (23期)

高校卒業後50年！しっかりと高齢者枠入り。横断歩道を急いで渡っては毛躰き、老眼鏡で階段を踏み外す、少し屈めばぎっくり腰、人や物の名前がパツと浮かばない、など加齢現象エピソードは枚挙にいとまがない。加速の一途を辿るのか!?!と不安にかられつつも怠惰な毎日を過ごしていた今夏、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、改めて年齢、障害、平和などにについて考えさせられた。

特にパラリンピックは驚異的で、口にラケットを加えて卓球、片足で自転車競技などの数々。視覚障害マラソンでは、何と66歳のオバアが42.195キロを完走。ゴール間際で止まった時、思わず「ワイドー！」とテレビに向かって叫んだ。メダリスト達のコメントも素晴らしく、「失ったものに注意を向けず、残さ

れた機能に感謝して挑戦し続けた！」

オバアも見做わなくちゃ。とりあえずラジオ体操から始めよう(笑)。

さて、話題は変わって高校時代。沖縄は未だアメリカの統治下にあり、紙幣はドル(1ドル=360円)で、交通は右側通行であった(今でも無意識に左側を歩く)。日本本土との往来にはパスポートが必要で、23期生の中には、その身分証明書を持っている人もい

よう。幸いにも教育は日本国民に準拠となっていたおかげで、日本語は失わずにすんだ。

アメリカ統治による不条理さを宮古島で実感するころは少なかつたが、沖縄本島では実に多く見聞きした。1972年5月(大学二年時)、日本本土復帰が実現した。その頃、伊江島の阿波根昌鴻さんの講和を

聞く機会が何度かあり、基地問題は残るものの、日本復帰は彼らのような平和運動家の地道な努力によるものでもあると思つた。

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」登録余話

我那覇 念 (23期)

この事業に最初から関わっていた私が体験したことはいくつかを紹介したい。

1993年8月、登録に大きな影響を与える世界遺産委員会のイコモスの委員(考古学・英)が来沖し、首里城跡など推薦候補地のいくつかを予備調査した。当時の首里城跡は国による公園整備の工事が行われており、正殿後方のエリアには複数のクレーンが稼働し、大型車両が頻繁に出入りして

いてまさに土木工事現場の状況であった。が、当日は工事関係の音の一切しない環境下で調査は行われた。

オリンピック・パラリンピックの難民選手団に、アメリカ統治下の沖縄高校生が甲子園出場を断念せざるを得なかつたイメージが重なり、ワイテイ頑張り！と

なり、ワイテイ頑張り！とメールを送った。現高校生の半世紀後も平和ユエであつてほしいと思うばかりである。

彼は、正殿地下の石積み遺構の保存状況をガラス越しに確認した後で、京ノ内の岩の頂上からクレーンを見たが何も言わなかつた。

登録申請書(案)は英語で作成され写真・スライドなどが添付される。作成は東京在の専門業者に委託した。文化庁への提出期限までに数カ月しかない大急ぎの作業となつた。

文化庁からは県文化課に追加資料として今帰仁城跡に係る地図を今日中に送るようにと 指示が午前中にあり、村教育委員会の担当に持つてきてもらい送付し

たこともあつた。なお申請書(案)の日本語原稿の構成資産の説明文は県が作成した。受託業者では、英訳は東大大学院の理系を修了した人が行ったが、先述の委員の調査に同行した通訳者から専門用語の英語表現が難しいと聞いていたので苦労したであろうと思われる。

2000年1月、申請資産の現地審査のためにイコモスから派遣された評価員(考古学・中国)の歓迎の二次会には禁酒中の県教育長と下戸の次長も同席した。体格のよい彼は中国式の乾杯を重ねた。最初は教育長が、そして途中からは次長が引き継いだ。

以上は、私が世界遺産登録事業に関わつた中での体験で印象に残っていることである。

新宮古病院建設に関わって

(元沖縄県病院事業局病院事業統括監)

小川 和美 (23期)

新宮古病院が旧宮古農林高校グラウンド跡地に移転新築され、2013年5月に供用開始された。

私は、2008年4月に病院事業局統括監に着任し、宮古病院の建替えの案件が難航しているとの引継ぎを受けたものの、心の中では「これは神様が僕に残してくれた宿題かもしれない」と思った。着任挨拶で宮古病院を訪れた際に安谷屋病院長にそのような話をしたことを覚えてい

る。新病院の検討が足踏みしていた理由は、当時の病院事業の経営状況にあった。単年度で約35億円の赤字を計上する全国ワーストの経営状況となっており、多額の予算を必要とする新病院建設にまで考えが及ばないのが当時の状況だった。しかし、老朽化した建物

は待つてくれるはずもなく、看護部長室の天井が剥離し落下したなどの報告が相次いだ。折しも、視察で宮古病院を訪れていた仲間が直接説明されることとなり、県庁内においても、「何とかしなければ」の機運が開始された。

間を置かず、病院事業局内に用地選定委員会を設置し、複数の候補地から旧宮古農林高校跡地に決定し、並行的に進めていた基本計画の策定作業も277床規模とする方向で合意形成が行われた。

いよいよ、最大の難関となる財源確保。国庫補助金要請へと進むことになる。病院事業局の前に、財政課で国庫要請を担当していたこともあり、私自身の関心は、国庫補助金の確保その

ものよりも、補助金の最大化と一般会計から支援の確保にあった。精力的な国庫要請の結果、2010年度の国庫補助事業として採択され、困難視された新病院の建設が現実のものとなった。宮古出身の県庁職員として新病院建設に直接関わられたことは、幸運というほかない。

県議会のたびに新病院建設の必要性を取り上げてくれた宮古選出県議の執念と地元医療関係者の合意形成に力を尽くしてくれた宮古地区医師会長の池村眞君の熱意が、新病院建設の一方の原動力となったことを記して感謝に代えたい。



昭和40年当時の学校風景



現在の宮古高校



令和3年度 南秀同窓会 役員



現在の宮古高校

役職	氏名	備考
顧問	仲地 清成	学校長
	金城 透	
会長 (理事)	與儀 千壽子	
副会長 (理事)	安谷屋 政秀 (業務執行理事)	教頭
	平良 智枝子	
	垣花 誠 (非常勤)	
(理事)	下地 信輔	
	宮国 敏弘	
	下地 悦子	
監事	石原 智男	
	根間 康雄	
事務局	島尻 光恵	庶務会計
渉外	山原 茂人	教諭

令和3年度 関東南秀同窓会 役員

役職	氏名	期別
会長	川上 正人	23
副会長	砂川 清栄	16
	下地 隆	21
	平良 忠信	28
事務局長	上原 英夫	18
事務局次長	与那覇 一佳	20
幹事	仲間 昭治	7
	上地 弘二	8
	国仲 登	10
	砂川 祐一	12
	砂川 弘子	16
	砂川 敏郎	17
	関根 美江子	18
	宮国 泰斗	19
	仲本 光正	28
	山中 朝司	29
会計	国仲 晃行	12
	吉田 静子	18
監査	平良 明子	14
	仲宗根 晃	18
顧問	赤崎 多喜夫	6
	嘉手川 清次	7
	砂川 真栄	9
	友利 三雄	9
	宮里 邦雄	10
	砂川 隆久	10
	大山 芳男	12
	国仲 晃行	12

令和3年度 沖縄南秀同窓会 役員

事務所 〒900-0014 那覇市松尾1-19-1
 合人社沖縄県庁アネクス1003
 TEL・FAX 098-868-6225

役職	氏名	期別
会長	豊見山 恵美子	21
副会長	津波 悠子	23
	伊志嶺 恒洋	25
事務局長	与那覇 孝政	25
幹事	波平 剛	13
	下地 正	21
	盛島 明浩	22
	野中 貴志恵	22
	池間 聡	25
	浦崎 直子	24
	宮城 伸子	26
	狩俣 好則	27
	具志堅 忠昭	28
	西里 喜明	29
監査人	田場 君子	21
	國仲 勝則	27
顧問	仲宗根 義夫	14